

- ・春まきに比べ各品種とも花蕾が2L～3L中心になり収量性が増しました。
- ・ピクセルに比べSK9-099、スターラウンドが総合的に評価が高かったです。
- ・B1401は若干しまりに難点があるものの、一斉収穫が可能で、かつ規格内収量が一番高く規格外も無いことから、この時期の作型として有望と思われました。
- ・YQQ951は不整形による規格外が多く、この時期は不適と考えられました。
- ・参考までに独自品種として2品種（「おはよう」、「ゆたか32号」）も加え比較しましたが、「ゆたか32号」は丸型が強く茎空洞も目立ったものの両品種とも総合的に標準品種より勝りました。

2 ホウレンソウの品種地域適応性調査について

平成26年度より、初秋まきホウレンソウの品種比較試験を継続しておりますが、今年度は一般社団法人日本種苗協会の第68回全日本野菜品種審査会 ホウレンソウ（秋どり）受託試験の入賞品種を中心に調査を行い、市場需要が高い葉色の濃さのほか、収量、株ぞろい、食味などから評価を行いました。

【耕種概要】

- 作 型：初秋まき、ハウス栽培
- 供試品種：9品種（審査会で入賞した7品種および参考2品種）
- 栽植密度：9,523株/a（条間15cm×株間7cm）
- 播 種：9月7日、3粒条播
- 施 肥：N=13、P₂O₅=8、K₂O=11（kg/10a）
- 収 穫 日：10月13日 ※審査会開催時に一斉収穫し調査を行った。
- ※灌水・防除は慣行による。防除は期間中殺虫剤3回。

【調査結果】

一斉収穫につき収穫基準を超えた品種もありましたが、本試験において評価が高かったのは、「Z-61」、「サムライ」、「黒葉ルーキー」、「TSP-538」の4品種でした。各品種の特徴・評価は以下の通りです。

「Z-61」

- ・収量、株ぞろい、葉色などの面で優れるため市場出荷向け品種として有望。

「サムライ」

- ・収量は平均値程度だが株ぞろいが良く、食味に優れるため、直売向け品種として有望。

「黒葉ルーキー」

- ・生育面ではやや晩生と思われたが、株ぞろいが良く、葉色の濃さに非常に優れる品種。

「TSP-538」

- ・株ぞろいにやや難があったが、生育面ではやや晩生で、安定した収量と葉色の濃さを持つ品種。

品 種 名	種苗会社名	べと病抵抗性	生育速度	平均調整重	反収量	葉 色		株ぞろい
				g/株		t/10a	観察	
TSP-536	タキイ種苗	R1～12+14-15	4	21.3	2.03	4	54.7	
Z-61	日本農林社	R1～12+13+15	4	25.4	2.42	5	58.2	良
黒葉ルーキー	中原採種場	R1-11	3	19.9	1.89	5	58.5	良
ガヤルド	日本農林社	R1～12+14-15	5	23.4	2.23	4	52.3	
TSP-538	タキイ種苗	R1～12+14-15	3	22.5	2.14	4	55.9	
ブラッシュアップ	武蔵野種苗園	R1～12+14-16	4	20.1	1.91	5	58.4	
TSP-526	タキイ種苗	R1～12+14-15	5	23.6	2.25	4	48.3	
ミラージュ	サカタのタネ	R1-7+9,11,13,15	5	22.7	2.16	4	47.0	
サムライ	渡辺農事	R1-7+9,11	4	22.3	2.12	4	47.9	良

※生育速度…早5～遅3、葉色…濃5～淡1、株ぞろい…特にぞろいが良かった品種